

若いケアラーの居場所 アシハラベース



シンポジウム



ヤングケアラー支援を考える

2024年8月2日（土）13：30～16：30

開催場所：天王寺区民センター 第2・第3会議室（定員：50人）

受講者数：30人 10代・・・1人 20代・・・2人 30代・・・3人 40代・・・2人 50代・・・7人 60代・・・6人 70代・・・2人 不明・・・7名

パネラーが急遽欠席というアクシデントもありましたがその空いた時間を kun こころの宮の今までの活動と、これからのヤングケアラー支援活動のお話をさせていただくことができました。三島さんのお話でも印象的ですね入り込んで来たのが良かったと言われる方、ヤングケアラーの就職支援の話や、行政の取り組みなどお話を聴くことができ、いろんな見方、捉え方がありますが全体的にまとまりのある内容でシンポジウムを終えることができました。

参加していただいた皆さん ありがとうございます。

感想

- ・ヤングではありませんがケアしている時他者に話してもなあ～みたいな気持ちは理解できます。働いていても友人といっても疎外感を感じず～と孤独感がありますよね。SOSを出したくてもきつと届かないだろうとあきらめていました。心配してくれる人、大事。
- ・今までいろんなヤングケアラーの研修に参加してきましたが一番内容が濃かったです。また、お話を聴きながら対人援助の基本となるようなことを多く学びました。アットホームなシンポジウムでした。
- ・当事者の方のお話を聴いてみたかった。ヤングケアラーを含め悩みを抱えている人たちにとって支えになることをするのは難しいのではないかと考えていましたが何気ない会話や挨拶などで日ごろから心掛けることで始めることができることを知りました。人と繋がる時に意識してみようと思いました。
- ・ヤングケアラー自身のメンタルヘルスのサポートをどうしていくのが課題にひとつであるということが表面的な印象で大変そうだなと言う印象で捉えていた自分にとって改めて考えさせられるものでした。話を聴くまでヤングケアラーも支援や、サービスをすることがヤングケアラーにとって大事なのではないのかと思っていましたが、ヤングケアラーが人に話を聴いてもらうことや、悩みを共有することが何より大切であると言う事を学べて良かった。
- ・初めて直にお話を聴きました。とても分かりやすく良かったです。基本はやはり傾聴の心を持って話を聴くことだと改めて実感しました。
- ・「我慢は人のためになるけれど自分のためにはならない」と言うのが印象的でした、必要なのは支援でなくて話せる人と居場所というのも納得できました。
- ・自分の体験をわかりやすく話していただきありがとうございました。
- ・三島さん、とても優しい方だと感じました。「介護の最中は父と姉のことを憎んでいた」と言うことを聞いて「本音」を言える状況になられたことを嬉しく思いました。
- ・「一家にひとりの支援者」ともいい言葉です。私もそうでありたいと思いました。皆様のお話はとても分かりやすく伝わってきました。人としての気づきや思いやりが大切だと感じとても勉強になりました。
- ・リアルなケアラーさんの話を聴いて大切な気づきがありました。支援につなげる前に人とのつながりが大切だと言う事話せる大人がそばにいてくれることの大切さ「大変だね」と言う言葉よりも承認が欲しい。承認とは、評価のいらぬあなたをそのまま認める言葉。ケアラーさんにも話を聴く前に承認なんだなと思いました。特別な言葉がけよりもありのままのあなたを受け入れる大人が増えることがヤングケアラー支援の一步かなと思いました。

- ・三島さん答えにくい質問にも考えながら素直にお話してくださってありがとうございました。平井さんの補足のお話がとても分かりやすく、ヤングケアラーについて本質が見えてきたような気がしました。
- ・私は何化支援していくことが大事だと思いました。もちろん支援も大事ですが、居場所、そして人（仲間）がいることが大事だと言う事を学べてよかったです。日常のセンサーを大事にしたいと思います。
- ・ヤングケアラーについて勉強がしたくて参加しました。支援はいらない「仲間や居場所」が必要という言葉にびっくりしました。支援は必要だと思っていましたがその言葉で新たな意識が植えました。
- ・ヤングケアラーと言うくりでの支援について考える機会となりましたが、考えれば考えるほど当事者のお話を聴くほど人によって状況や受け止め方、周りの環境など大きく違うのでニーズも様々、正解はないような気がしました。何やら「支援する」と言うのもちょっと差出がましいような当事者の方々の声をヒントに行きやすい社会を作ると言うのが周りの人ができることなのかなと勝手ながら感じました。
- ・子どもや若者が火 z 区のケアをすること自体が問題なのではなく、彼らならではの悩みや困りごとをどうして行くのか、どうやって彼ら自身や社会がそれに気づくか、と言う点に社会の課題があるんだろうなと思いました。私自身ケアラーではないけれど、機能不全家族で育った辛い過去がありますが同じように悩み苦しみながらも自分の人生を整理して生きておられる方の話を聴くと心が温かくなる感じがしました。
- ・三島さん平井さんの話を聴いていて様々な場面を思い出しながら聴きいってました。私は養護教諭をしていて、教育+ケアのバランスが自分の中で難しく感じていました。そこに「居場所」と言うエピソードから私が今前で養教としていた何が無い挨拶や雑談で承認+居場所、頼っていい大人へと繋繋がるんだと「人として扱われている」すごく難しいと感じていた私の考えは今日の三島さん、平井さんのお話から私までケアをしていただきました。今日は来て良かった～と本当に思います。
- ・ケアラーさん自身が大変と持っていないのに「大変だね～」としてはいけない。三島さんと平井さんのディスカッションが聞けて今日は良かったです。
- ・三島さんのお話も本当に感動しました。自分を整えて日常的にヤングケアラーとして地域で何かお役に立てたら嬉しいです。いろいろ学ばせていただきました。地域の見守りおばさんとしてアンテナはって頑張ります。
- ・ケアラーさんには寄り添いが必要なんだと改めて目の前の人の事を知ってほしいということ、挨拶のできる話やすい人になりたいです。勉強になりました。
- ・地域内で社会問題である「ヤングケアラー」のシンポジウムが聞けたことはとても有意義でした。当事者の勇気ある行動に心から感謝しています。ありがとうございました。
- ・登壇者が急にキャンセルされ主催者の方はとても困惑されたことと思います。大変ご苦勞をなされたことと思います。お疲れ様でした。
- ・先生方のパワフルさに元気をもらいました！三島さんはご家族が大好きだったのですね、お母さんにもそしてとても優しい方だと思いました。
- ・ケアラーであろうとなかろうと、世間の中での何気ない生活の中で出会った誰かに自然に優しい気持ちで接することが何気ないことは（笑顔、目を見て言葉を交わすなど）大きな力となると思うのでいつもそういう体で接したい。
- ・とても貴重な話を聴かせていただきました。我慢は誰かを守れるかもしれないが「自分」は守れない。とても印象に残るフレーズです。ヤングケアラーの方、まずはご自身のことを大切にしてほしいと思いました。そんなケアラーを支援するためにはヤングケアラーサポーターが普段の生活の中でセンサーを立てケアラーに寄り添えることが大事だと思った。
- ・安易に言っているつもりはないが「大変ですね」と言ってしまう、これが当人からは違和感、拒否感があると思っているとは思っていなかった。学校の先生ほど声をかけたら良かったのでしょうか、サポーターとしてまず、自分を知り自己のメンタルケアが必要だと改めて感じた。
- ・本日はありがとうございました。ヤングケアラーと言ってもいろんなタイプがいるということ。また家族の問題に起因することを理解する必要があり、支援 4 する側をまず整えないと、器だけ作っても支援も機能しない可能性がある。

- ・今回のシンポジウムは当事者、支援団体、行政とそれぞれの立場からの話が聞けて良かったと思う。ヤングケアラーに限らず聴くと言う事が大事なのだと改めて認識した。
- ・とても勉強になりました。会場の雰囲気に和やかで温かさに包まれていました。皆さんのリアルで覚悟のある話をもっと広がれば良いと思いました。ありがとうございました。
- ・若者ケアラー当事者の方の話を聞かせていただき目の前の人にとこまでも興味を持ち接していくことが大切だとまなびました。ヤングケアラーと言えどもそれぞれが抱えている状況は違い、目の前のひとりを個別化し接することで信頼関係や承認されていると感じることができるとの思いで今後支援を考えていかなければならないと感じました。
- ・サポーター養成講座についてとても興味がわき、今後も関わらせていただければと思います。

多方面からたくさんのお話を聞いてくださりありがとうございました。

ご参加くださった方々からたくさんの気づきがあった、考えさせられること多々あったと言う反響がありました。

ご意見ご感想 ありがとうございました。

令和6年 秋にヤングケアラーサポーター養成講座 開催いたします。

受講対象者

- ・ヤングケアラー支援が必要だと考えている方々
- ・ヤングケアラー当事者、元ヤングケアラー
- ・ソーシャルワーカー、生活相談員、ケアマネージャー、民生委員

特定非営利活動法人 kun こころの宮

